

大豆緊急情報

令和2年(2020年)7月9日
滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課
(東近江農業普及指導センター)

降雨等の影響で、播種済みのほ場では滞水しているところが多くみられます。また、播種できていないほ場も散見されます。このようなほ場では、以下のような対応をお願いします。

1. 排水対策

大豆は、播種から出芽までの間の湿害に弱いので注意が必要です。ほ場が湿気た状態で無理に播種すると、発芽不良や欠株が発生します。また、すでに出芽しているものについては、生育が抑制されます。

☞ほ場に水がたまっている場合は、排水対策をできるだけ早く行いましょう。

2. 播種

7月中に播種するのが望ましいので、無理をせず、ほ場が乾くまで待ちましょう。

土壤水分が多いと思われる場合は、播種深を3～4cmとし、深まきは避けましょう。

播種が遅れているほ場は1～2割程度種子量を増やしましょう。

3. 雑草対策

土壤水分が高いと雑草の繁茂が懸念されます。

播種時の土壤処理剤は、大豆が発芽すると散布できませんので、播種～除草剤散布まで連続して作業をするようにしましょう。